

「研究主題」

「自己理解を深めながら、主体的に進路を考える力を高める指導のあり方」

湯沢雄勝進路指導・キャリア教育研究会 研究部

発表者 湯沢市立山田中学校 教頭 豊島 寿

1 はじめに

コロナ禍という状況が続く中、本研究会会員が一堂に集まって研修を進めることは難しい日々が続いております。本研究会の特徴的な取組として、看護協会のご協力で実施している「生徒と教師の職場体験学習」、湯沢翔北高校専攻科と連携して実施しているオープンキャンパスの2つが挙げられます。今年度「職場体験学習」は、計画していた一部ではありますが、なんとか実施できました。しかし、例年通りの実施が困難になっている状況は続いております。

このような状況ですので、今回は本研究会に所属する学校の中から、「研究主題」に関わるキャリア教育の実践について、2校を紹介します。

2 各校の実践タイトル

(1) 山田中学校 「YAMACHU SDGs」

(2) 稲川中学校 「iNAゼミ」

3 実践の概要

(1) 山田中学校「YAMACHU SDGs」について

①「YAMACHUコーポレーション」から「YAMACHU SDGs」へ

起業学習「YAMACHUコーポレーション」は、文部科学大臣表彰を受け、マスコミにも取り上げていただき知名度も高まってきました。特色ある学校づくりの点からも欠かさない存在になりました。一方、休日に行われることが多い各種事業への出店や参加の依頼が増え、それに伴っていくつかの課題点が出てきました。

1つ目が時数の確保です。総合的な学習の時間だけで対応しきれない活動ではなくなりました。参加希望者だけの活動では、学びの機会を保障することが出来ません。2つ目が総合的な学習の時間として身に付けさせたい資質・能力がぼやけ、特別活動の要素が多くなってきました。3つ目が教職員の負担増です。依頼に応えるほど、引率する教職員の負担が増加します。

これまでの活動を継続するためには、これらの3点を解決する必要がありました。そんな2020年4月、新型コロナウイルス感染予防のため、これまでの対面販売や接客、渉外、広報も活動停止しました。「YAMACHUコーポレーション」の事業展開がストップしたのです。そこで、思い切って「起業学習」から「地域貢献」に活動の軸足を移しました。過去のオリジナル商品の販売は縮小して継続し、運営組織を、ふるさとふれあい部、ふるさと環境部、ふるさと自然部、ふるさと発信部の4部に再編して、個の課題や各部門

のテーマに沿った地域貢献活動を企画・実施することになりました。課題と捉えていた「個の学びの充実」と「教員の負担軽減」を図りつつ、YAMACHUコーポレーションのDNAを引き継ぎました。

②「YAMACHU SDGs」への転換

活動の軸足を変え、組織を再編したことで2020年度のYAMACHUコーポレーションを通じた学習活動は、一定の成果を得ることができました。しかし、学びの継続性という点では途切れてしまいました。新学習指導要領の「社会に開かれた教育課程」の実現に総合的な学習の時間を切り口として取り組みたいと考えました。そんな折、「SDGs」について学ぶ機会がありました。「貧困、飢餓、健康と福祉、教育、ジェンダー、…」地域貢献の個人テーマがどれかに当てはまります。さらに、SDGsは2030年までの達成を目指している点で、年度当初に掲げた「10年後の未来を支える人づくり」という学校経営の構想と合致します。2030年には社会人となっている中学生たちは「SDGsの当事者」なのです。

こうして「YAMACHUコーポレーション×SDGs=YAMACHU SDGs」がスタートしました。決して新しいことを行ったわけではなく、これまでの取組をSDGsの17の目標に「位置付け」し探究活動を行い、中学生の自分が「10年後の未来」にどう関わるべきかを考え、自分がどんな行動を起こすのかを決め実践していく活動に転換しました。生徒にとっては「何のために」学んでいるかが明確になりました。



③まとめとして

秋田の学校教育の共通実践課題である「ふるさと教育」は「心豊かで、郷土愛に満ちた人間の育成」と「自ら学び自ら考え、課題を探究する力などの学ぶ力の育成」、「高い志と公共の精神をもち、秋田の将来を支えていく人材の育成」を重点事項として掲げています。地球規模の問題を知ることきっかけとして、自分たちの身の回りとの関連に目を向け、地域の実態はどうなのか、どんな問題点があるのか、自分たちにはどんな意識や行動が必要なのかを考え行動する学習活動が展開されています。

さらに、自校の総合的な学習の時間自体が「持続可能な学び」となり、中学校3年間にとどまらず、高校での総合的な探究の時間や、上級学校での学び

令和3年10月17日(日)秋田さきがけ
「さきがけこども新聞」掲載!

SUSTAINABLE GOALS DEVELOPMENT
YAMACHU SDGs



に繋がる可能性も秘めています。「YAMACHU SDGs」の探究活動をとおして、グローバルな視点を持ち、やがては地球規模の問題の解決に貢献するような、「10年後の未来」を支える人づくりに取り組んでいます。

(2) 稲川中学校「iNAゼミ」について

① 「iNAゼミ」の目的

稲川地区には、稲庭うどん、川連漆器、駒形リンゴ、三梨牛などの伝統産業(地場産業)がありますが、どれも新たな販路拡大や後継者不足などの課題を抱えています。合わせて少子高齢化や人口減少などの影響もあり、地域の活性化が喫緊の課題になっています。今年度、稲川中学校では、総合的な学習の時間(稲川ゼミナール 以下iNAゼミ)でこの問題を取り上げ、地域事業者の助言を受けながら、子どもたちのアイデアや自由な発想による新商品の企画・開発等を通じて地域貢献に当たろうと考えました。本事業は、中学校での学びと地域活性化を結び付ける事業であり、真に学校と地域がともに歩み始める、夢あるプランであり、ふるさと稲川の可能性を子どもたちが自分の手で見つけるいい機会になると確信しています。

※iNAは、稲川中学校の稲(iNA)と『稲川地区(inakawa)の新しい(New)魅力(Attractions)』の両方の意味をもたせています。

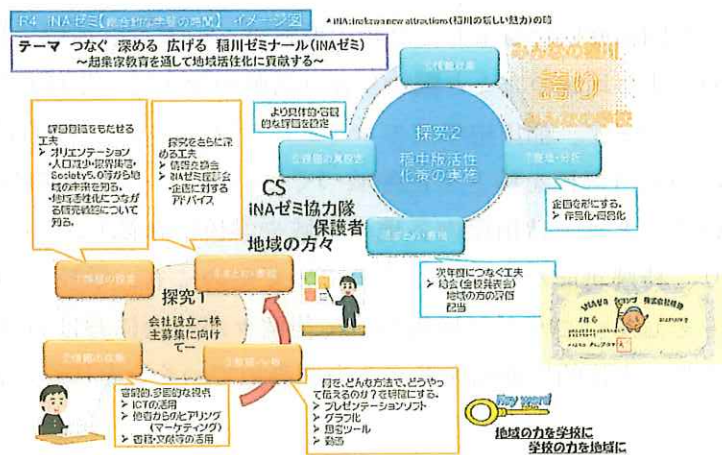
② 「iNAゼミ」の概要

稲川中学校の学校教育目標は、「生徒も職員も保護者も地域住民も誇りをもてる学校づくり」です。そして、コミュニティ・スクールの目指す姿として、「子どもは地域の希望であり元気の源」、「地域は子どもたちの強力な応援団」、「地域は教育の場、後継者育成の場」などを挙げています。

これらの考えの下、総合的な学習の時間の目標は、地域の産業に関わる探究的な学習を通して、地域がもつ強みと弱み(特色・課題)に気付き、さらに強みを生かす方策や弱みの解決策を考えて提案するなど、地域の一員と

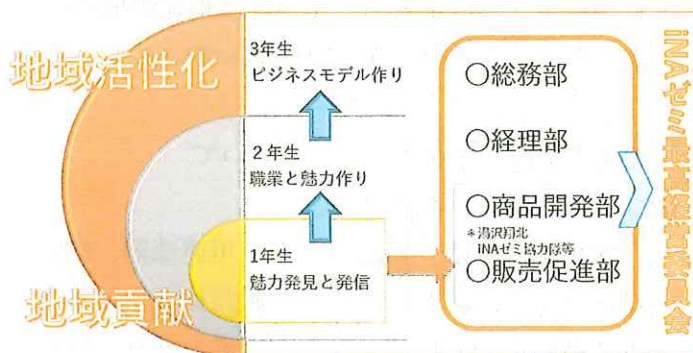
しての自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することとしています。そして、テーマは「つなぐ 深める 広げる 稲川ゼミナール(iNAゼミ)～起業家教育を通して地域活性化に貢献する～」です。

iNAゼミでは、地場産業を題材にした様々な商品開発を行い、地域とともに活性化していくことを目指して学習活動を進めています。昨年度は、多くの方のご協力を得て稲庭うどん・川連漆器・駒形りんごをセットにした受験生応援ギフト『夢かなエールギフト』



を販売することができました。今年度は、活動をさらにバージョンアップし、iNAゼミの活動をこの先も持続させていくために模擬会社『稲川カンパニー (iNA-CO)』を立ち上げました。地域の多くの方々に株主になっていただき、昨年度以上の活動が進められています。

ハイブリッド型縦割り学習 (学年・縦割り混合型)



③ 「iNAゼミ」の成果 (○) と課題 (▲)

- 生徒の学習意欲の向上
- 生徒が自分の (自分たちの) 力で地域を活性化できると考えはじめた
- 地域事業者との連携の幅が拡大
- 保護者への周知および保護者の協力
- 商品化品目の拡大
- ▲一部の生徒の取組になっている
- ▲地域への周知不足
- ▲iNAゼミ協力隊の組織化
- ▲販売網の拡大と広報活動の充実

4 おわりに

今回紹介いたしました2校の取組は、いずれも地域に目を向け、地域に貢献していこうとするものです。地域の方々と関わり合う活動のなかで、生徒たちの気づきがあったり、学びが深まったりしています。稲川中学校のコミュニティ・スクールの目指す姿には、「教育は学校だけでは完結しない」、「学校を核とした地域づくり」というものも掲げられています。こうした思いを達成していくことは、秋田県内各地の地域や学校が存続していくためにも大切なものだと考えます。つまり、持続可能な社会をつくっていくためにも、学校が力を発揮できることは大きいと思います。

そして、こうした取組が、生徒個々が社会における自らの役割や将来の生き方を考える機会となり、主体的に進路を考える力を高めていくことにつながっていくと考えます。

総合的な学習の時間 経営計画

1 研究主題

「地域産業を題材とした探究的な活動（起業家教育）を通して、地域の活性化に貢献するとともに、地域に誇りをもち地域の一員としての自己の生き方を考えていく生徒を育成する」

2 主題設定の理由

iNAゼミ1年目の活動を通して、生徒の地域へ貢献心や自己実現力の向上がアンケート結果から見られた。そこで、今年度は、iNAゼミの活動の持続性と生徒が将来必要となるコンピテンシーの育成をさらに目指し起業家教育を取り入れる。生徒運営の模擬会社を組織し、地域の活性化を目指す中で、昨年度よりも主体的に地域に向き合った活動を進めることができると考える。“地域の力を学校に 学校の力を地域に”をキーワードに、地域と学校の連携した活動を意図的に取り入れていく。

近い将来、人口減少の課題に直面する中で、稲川地区に受け継がれてきた伝統産業を自分たちの手で守っていきたいという思いを第一に、地域の一員としてできることを考え、実際の行動に移していける力を身に付けさせていくために、本研究主題を設定した。

3 学校として育成を目指す資質・能力

- い いろいろな見方・考え方ができる力
- な 仲間のよさを生かしながら協働する力
- ち 知識・技能を生活に結び付け、確かに身に付ける力
- ゆ 勇気をもって前に踏み出す力
- う うまく自分をコントロールする力

4 重点目標

- (1) 課題解決に必要な知識・技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさ、課題に気付く力を身に付けさせる。
- (2) 地域の現状から課題や問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に考えたりするとともに、根拠を明らかにしてまとめ、表現する力を身に付けさせる。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画できる力を身に付けさせる。

5 具体的な指導方針

- (1) 縦割りのグループ活動を通して、協働して活動を進められるようにする。
- (2) 地域の教育力（CS及びiNAゼミ協力隊）を生かした学習活動を通し、体験的に探究する時間とする。
- (3) 情報の収集・処理、まとめ方や発表の仕方など、各教科等で身に付けてきた資質・能力を発揮する場とする。また、活動の質を高めるためにICTの積極的な活用を図る。
- (4) 学習の成果を他の生徒や地域の方々等に発信する場を設定する。
- (5) ねらいに沿った評価活動を行い、系統性をもった取組になるよう留意する。

6 評価規準（全体計画参照）

7 活動計画及び時数について

- (1) 総合的な学習の時間（iNAゼミ）テーマ *inakawa new attractionsの略
『つなぐ 深める 広げる 稲川ゼミナール～起業家教育を通して地域活性化に貢献する～』
- (2) 活動計画（年間活動計画参照）

【生徒の実態】
 ○明るく素直で落ち着いている
 ○地域のことが好きである
 ○指示待ちで主体性に欠ける面がある
 ○いい考えをもっているものの、それを行
 動に移すことが苦手である。

【学校の教育目標(目指す学校像)】
 生徒も職員も保護者も地域住民も「誇りをもてる」学校づくり
【目指す生徒像】
 ・身を乗り出して学びに向かう生徒の育成(知)
 ・自分や仲間、地域のよさを発見する生徒の育成(徳)
 ・挑戦し続ける気力と体力のある生徒の育成(体)
 ・地域に貢献する気概と行動力をもつ生徒の育成(志)
【育成を目指す資質・能力】 自らの意思で、周りを巻き込んで動く力

【保護者の願い】
 ○視野を広くもち、柔らかな考えができる
 ○いろいろな体験をして、どんな場面でも
 的確な判断ができる
 ○活気あふれた町づくりに貢献できる
 ○豊かな人間関係を築くことができる
 ○挫折も失敗も全て次につながる経験と
 前向きに捉えることができる
 *保護者アンケートより

【地域の実態】
 ○学校教育に対する理解や期待が高い
 ○PTAへの参加率が高い
 ○伝統的な地場産業が盛んである
 ○過保護・過干渉と思われる家庭・保護者
 も見られる。

【総合的な学習の時間の目標】
 地域の産業に関わる探究的な学習を通して、地域がもつ強みと弱み(特色・課題)に
 気づき、さらに強みを生かす方策や弱みの解決策を考え・提案するなど、地域の一員と
 しての自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のように育成する。
 (1) 地域の産業に関わる探究的な学習の過程において、課題解決に必要な知識・技能
 を身に付けるとともに、地域の特徴やよさ、課題に気付く。(知識及び技能)
 (2) 地域の産業に関わる課題や問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、
 調査して得た情報を基に考えたりするとともに、根拠を明らかにしてまとめ、表
 現する力を身に付ける。(思考力、判断力、表現力等)
 (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしなが
 ら、積極的に社会に参画しようとする態度を育てる。(学びに向かう力、人間性等)

【地域の願い】
 ○自立 ○たくましさ ○野心
 ○考える力 ○思いやり
 ○夢 ○あいさつ ○地元愛
 ○コミュニケーション
 ○社会との関わり方
 *CS研修会でのキーワード

【学校として定める探究課題と、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力】

学年	第1学年 (50時間)	第2学年 (70時間)	第3学年 (70時間)	
テーマ	つなぐ 深める 広げる 稲川ゼミナール (iNAゼミ) ~起業家教育を通して地域活性化に貢献する~			
探究課題	町づくりや地域活性化			
探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力	知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の産業の特徴やよさ、課題に気づき、地域活性化に向けた自分の地域への関わりを理解している。(相互性) ・地域の人口減少や少子高齢化が影響を及ぼしていることを理解している。(地方特殊性) ・消費者のニーズの多様化が影響を及ぼしていることが分かる。(関係性) ・情報を比較・分類・関連付けるなど、探求の過程に応じた技能を身に付けている。 ・各教科等で身に付けた知識及び技能等を活用し、学習が深化するよさを理解している。 		
	思考力、判断力、表現力等	課題の設定	・地域の抱える課題や地域の強みに気付く活動を通して自己の課題を設定し、見直しをもって計画を立てることができる。	
		情報の収集	・課題解決に必要な情報を、効果的な手段を選択して多様に収集し、適切な方法で蓄積している。	
		整理・分析	・課題解決に向けて、多様な特徴の特徴に応じて整理し、比較したり因果関係を推論したりして考えることができる。	
		まとめ表現	・相手や目的、意図に応じて各教科等で身に付けた技能を活用してまとめ、表現することができる。	
	学びに向かう力、人間性等	自己理解 他者理解	・探究的な活動を通して、自分の生活及び地域との関わりを見直し、自分の特徴やよさを生かして地域の活性化に粘り強取り組もうとする。	
		主体性 協働性	・自他のよさを生かしながらか協力して問題の解決に向けた探究活動に主体的に取り組もうとする。	
将来展望 社会参画		・進んで課題解決に取り組むとともに、地域の一員としての自己の生き方を考え、積極的に地域と関わろうとする。		

【学習活動】
 ・ 地域の実態、生徒の実態を踏まえ、探究課題を設定する。
 ・ 地域の人、もの、ことを生かした学習活動を行う。
 ・ 学習成果を表現する場として学校祭や PTA での授業参観を活用する。
 ・ 縦割り課題別少人数グループ活動を行う。
 ・ 年間1テーマでの取組を基本とする。

【指導方法】
 ・ 生徒の課題意識を連続、発展させる支援と工夫を行う。
 ・ 個に応じた指導の工夫を行う。
 ・ 体験活動を重視する。
 ・ 単元配列表を作成し、各教科等との関連を重視した指導を行う。
 ・ ICTを積極的に活用する。
 ・ 協働的な学習を充実させるため、思考ツールを積極的に活用する。

【指導体制】
 ・ 全校指導体制を組織する。
 ・ 学校運営協議会や iNA ゼミ協力隊との連携を図り、地域の教育力を活用する。
 ・ 地域での体験学習を重視する。
 ・ 地域の教育資源をデータ化するとともに、日常的な関わりを行う。

【学習評価】
 ・ ポートフォリオを活用した評価の充実を図る。
 ・ 観点別学習状況を把握するための評価規準を設定する。
 ・ 個人内評価を重視する。
 ・ 指導と評価の一体化を充実する。
 ・ 期末、学年末には指導計画を評価・改善し、次年度の計画に生かす。

【各教科等との関連】

各教科等	道徳教育	特別活動
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身を乗り出して学びに向かう学習意欲を育成 ・ 探究の過程を身に付ける学び ・ 協働的な学習場面の設定 ・ ICTを活用した個別に最適化された学び ・ 知識及び技能の確実な習得と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳科の時間を要とする豊かな心の育成 ・ 指導の重点項目「希望と勇氣、克己と強い意志」「相互理解、寛容」「社会参画、公共の精神」「郷土愛」「よりよく生きる喜び」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する。 ・ 合意形成や意思決定する場を設定する。 ・ 役割を分担して協力して実践する。

【小学校や地域との連携】

【近隣の小学校との連携】
 ・ 小学校で育成された資質・能力の系統性を確認する。
 ・ 小学校での学習内容を確認する。
 ・ ポートフォリオなどの学習の記録を行う。
 ・ 地域の活性化策を提言、発信し校区内6年生に公開し、中学校の総合的な学習の時間への見直しをもつ。
【地域との連携】
 ・ 学校運営協議会と連携し、地域の方々と協働して地域活性化策を提言、発信していく。

R4総合的な学習の時間 稲川ゼミナール(iNAゼミ) 年間活動計画 *iNA: inakawa new attractions

No.	月	週	過程	活動	時数	主な内容			1st	2nd	3rd	評価				
						1st	2nd	3rd				知・技	思判表	態度		
0	4	3		組織関係づくり						最高経営会議	2	10	10			
1		4		オリエンテーション 2・3年	2h					概要説明、ルーブリック、所長希望等	0	2	2	②		
2	5	6	課題発見	iNAゼミ講演会 1年生	1h	5月6日 出前講座 地方創生 ～人口減少社会に備えた地域づくり～					1	0	0	①	①	
3		7	課題設定	iNAゼミ講演会 2・3年生	1h	オリエンテーション 概要説明、ルーブリック、所長希望等				5月13日 ゆざわBz 販売戦略について	1	1	1	②	①	
				テーマ決め	1h					個人テーマの設定	1	1	1	①・②		

総務	経理	販売促進	商品開発	夢かなエール	ハート型りんご
----	----	------	------	--------	---------

4	8	仮説	組織づくり	2h	目的、内容の確認、計画の策定作り、組織づくり(各部門内の役割分担に当たったグループ作り)					2	2	2		①					
5	9	計画	活動計画・企画立案	2h	活動内容の検討、確認					2	2	2		①					
6	6	10	追究①	2h	全体組織の把握	R3決算	・動画等の準備		(見直し 商) 販売戦略 販	(型の検討・決定 商) 販売戦略 販	2	2	2	③	②	②			
7	11	2h		・チームプレート	R4予算作成	↓			マーケティング 販			2	2	2	③	②	②		
8	12	2h		・協会準備	・株券準備	↓		iNAゼミ座談会	PR動画 販	(型の成形 商) PR動画 販		2	2	2	④	②	①		
9	7	13		2h	↓		↓					2	2	2	④	②	②		
10	14		*2年生 振り返り入力	2h	進捗状況の確認		確認(総務とチェック)				2	2	2			全般			
11	15	発信	総会	2h	進行・全般説明	予算		地域広域動画 商品動画(夢かなエール)	企画商品紹介	動画紹介 販	動画紹介 販	2	2	2	④	②	②		
12	16	修正	*2年生 職場体験計画	2h	総会を受けての企画改善							型ハメ 販・商	2	2	2	③	②		
13	17		*2年生 職場体験計画	1h			↓					1	1	1	③	②			
			振り返り	*2年生 職場体験計画	1h	追究①を振り返る(前期の自己評価)								1	1	1	⑤	④	②
			夏休み	8月4日～6日	12h	夏休み期間中の準備作業													
14	8	23	追究②		2h						2	2	2			②			
15	9	24		修学旅行・校外学習	0h						0	0	0						
16		25	追究②		2h						2	2	2			②			
		26		秋分の日	0h						0	0	0						
17		27	修正	中間報告会	2h	進行	アドバイス	報告(動画等)	報告(商品)		2	2	2		③	①			
18	10	28	追究②	*企画修正	2h				修正		2	2	2			②			
19		29			2h				準備		2	2	2			②			
20		30		学校祭	0h	販売・広報動画途中公開							0	0	0				
21		31			2h						2	2	2			②			
22	11	32			2h					*収穫 販・商	*収穫 販・商	2	2	2		②			
23		33	考察	まとめ(グループ)	2h	総会に向けた準備①							*カクテル乾燥 販・商	*販売 販	2	2	2	⑤	③・④
24		34		まとめ	↓				準備②		*梱包 販・商		2	2	2	⑤	③・④		
25		35		まとめ(個)	2h				準備③			2	2	2	⑤	③・④			
26	12	36		振り返り入力(個)	2h	まとめ・振り返り							2	2	2	⑤	③・④		
27		37	発信	総会	2h	進行・全般説明	決算	商品動画	企画商品紹介		2	2	2	⑤	③	③			
28		38	振り返り	振り返り入力(個)	1h							1	1	1		全般			
		39		終業式	0h						0	0	0						
29	1	43	準備	次年度の準備		*稲川のみぎやまをさぐる(3年)							0	0	11		③		

学年毎総時数

50	70	70
----	----	----

<進路指導研究部 経営計画>

1 研究主題

進路への関心と理解を深めるとともに、自己の個性を伸長し、自己発見と自己実現を達成して地域貢献する生徒の育成

2 生徒の進路意識の実態と課題

生徒は、稲庭・三梨・川連・駒形の4小学校から集まっている。また、今年度4小学校が統合され、稲川小学校が開校した。地場産業(稲庭うどん・川連漆器・仏壇・三梨牛・駒形りんごなど)の発達した地域であり、保護者の多くがその仕事に従事している。そうした地域の特性として、生徒たちの働くことに対する意識が高く、保護者も協力的である。しかし、生徒が保護者の仕事を手伝う機会は少なく、職業観としては課題が残る。

進路については、ほとんどの生徒が全日制の公立高校への進学を希望している。生徒一人一人が早い段階から自分の進路について考え、将来を見据えた進路選択ができるようにすることが必要である。

3 研究主題設定の理由

素直で明るく、思いやりの心をもちながら、真面目に諸活動に取り組める生徒たちが多い。また、集団の中で積極的に協力しようとする姿勢も見られる。学校生活を通してよりよい自分自身や集団のあり方を深く見つめ直し、自主的に行動できるようにしていきたい。そのために、生徒一人一人が自己を見つめ、自己の能力や個性を積極的に生かしながらよりよい自分の姿を思い描き、主体的に行動し、さらに地域にも貢献できる生徒を育てたいと考え、本主題を設定した。

4 学校として育成を目指す資質・能力

- い いろいろな見方・考え方ができる力
- な 相手のよさを生かしながら協働する力
- ち 知識・技能を生活に結び付け、確かに身に付ける力
- ゆ 勇気をもって前に踏み出す力
- う うまく自分をコントロールする力

5 今年度の研究・研修の方向性について(基本方針)

- (1) 生徒自身が夢と希望をもち、その実現に向けて主体的に学習することで個性を伸ばすとともに体験や情報を生かして自分の意思と責任で進路を選択できるようにする。
- (2) 生徒の個性や適性を、生徒自身と保護者が共に理解し、将来に向けて進路設計を適切に行うことができるように支援する。
- (3) 学級指導における進路指導とそれ以外の進路指導の内容・方法を研究するとともに、両者の密接な連携を図りながら指導を進める。
- (4) 教育活動全体を通して、進路指導を実施することができるように研修を深める。

6 各学年の目標

第1学年 【知 る】	第2学年 【伸ばす】	第3学年 【生かす】
自分の将来に対する関心を高め、夢や希望に向けて主体的に学習し、その実現のために自己理解や自己伸長に努めようとする生徒を育てる。	自分の適性と進路の情報を理解して、いっそう明確な進路の希望や計画をもつようになるとともに、自分でその希望や計画を吟味し、実現しようとする生徒を育てる。	自分の能力・適性や希望する進路の情報を確かめて、自分にふさわしい進路を選択するとともに、その選択において適応・向上していくことができる能力をもつ生徒を育てる。

7 指導の重点

- (1) 学習の意義を理解させ主体的に取り組ませ、生徒自身が個性を伸ばすことができるような支援を行う。
- (2) 体験活動から生き方を学ばせるとともに、望ましい職業感、勤労感が得られるようにする。
- (3) 学級活動における進路学習の充実を図る。
- (4) 全校規模で「高校説明会」などを開催して、入試制度の特徴をよく理解してもらうための工夫をするとともに、「進路指導だより」などで、進路に関する情報を提供する。
- (5) 保護者との教育相談を随時行い、生徒とともに進路について十分検討できるようにする。

8 進路学習年間指導計画

☆学校として育成を目指す資質・能力

- い いろいろな見方・考え方ができる力
- な 仲間のよさを生かしながら協働する力
- ち 知識・技能を生活に結び付け、確かに身に付ける力
- ゆ 勇気をもって前に踏み出す力
- う うまく自分をコントロールする力

	1 年 生	2 年 生	3 年 生
4月	中学校生活の目標設定 (学活)	2年生の目標設定 (学活)	3年生の目標設定 (学活)
5月	教育相談	教育相談	教育相談 進路希望調査 進路選択に向けて (学活)
6月	将来の夢 (学活) 学習方法の改善 (学活)	学ぶ目的と意義 (学活) 職業の世界と産業 (学活) 進路先の調査 (学活)	進路計画 (学活) 進路先の調査 (学活) 進路選択のための諸条件 (学活)
7月	高校説明会	高校説明会 働くことの目的・意義 (学活) 職場体験学習の計画 (総合) 職場体験 (総合)	高校説明会 高校体験入学
8月	保護者面談 職業調べ (学活)	保護者面談 職場体験学習の評価 (総合)	三者面談 高校体験入学 高校体験入学のレポート作成
9月	教育相談 働くことの目的・意義 (学活)	教育相談 職業について (学活)	教育相談
10月	働く人々の姿 (学活)		入試説明会 進路希望調査
11月	教育相談	教育相談	入試説明会 三者面談
12月		自分の適性 (学活)	
1月	(進路希望調査)	上級学校調べ (学活) (進路希望調査)	三者面談
2月	自分の将来 (学活) 中学校卒業後の進路 (学活)	進路計画の検討 (学活)	一次選抜出願 (特別・一般) キャリアノート記入
3月	キャリアノート記入	キャリアノート記入	一次選抜 二次募集

湯沢市立稲川中学校 キャリア教育 全体計画



キャリア教育で身に付けさせたい基礎的・汎用的能力			
人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
<p>◎積極的に人と関わり、他者を理解しながら協力・協働することができる。</p> <p>[具体的な要素]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の個性を理解する力 ・他者に働きかける力 ・コミュニケーション・スキル ・チームワーク ・リーダーシップ ・フォローアップ 	<p>◎自分の可能性を信じ、主体的に行動し、自らを律することができる。</p> <p>[具体的な要素]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の役割の理解 ・ポジティブ・シンキング ・忍耐力 ・ストレスマネジメント ・アンガーマネジメント ・主体的行動 	<p>◎計画を立てて、その課題を処理し解決することができる。</p> <p>[具体的な要素]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の理解・選択・処理能力 ・本質の理解 ・原因の追及 ・課題の発見 ・計画の立案、実行力 ・評価・改善 	<p>◎自らが果たすべき立場や役割を理解した上で主体的に働く。</p> <p>[具体的な要素]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶこと・働くことの意義や役割の理解 ・多様性の理解 ・将来設計 ・選択 ・行動

【各学年の重点目標】

第1学年	第2学年	第3学年
<p>「情報の理解・選択・処理等」など課題対応能力や「学ぶこと・働くことの意義や役割の理解」などキャリアプランニング能力を高めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちや家の人の意見を聞くとき、その人の考えや気持ちを受け止めることができる。 ・自分の興味や関心、長所や短所について、把握することができる。 ・疑問点やもっと知りたいことがある時、自分から進んで資料や情報収集したり、誰かに質問をしたりすることができる。 ・学ぶことや働くことの意義を考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えることができる。 	<p>職場体験学習等で「学ぶこと・働くことの意義や役割の理解」「将来設計」などキャリアプランニング能力や「情報の理解・選択・処理等」など課題対応能力を高めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手が理解しやすいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝えることができる。 ・気持ちが沈んでいる時や、あまりやる気が起きない物事に対する時でも、自分がすべきことには取り組むことができる。 ・何か問題が起きた時、次に同じような問題が起こらないようにするためには何をすれば良いかを考えることができる。 ・自分の将来について具体的な目標を立て、その実現のための方法について考えることができる。 	<p>「計画立案」など課題対応能力や「学ぶこと・働くことの意義や役割の理解」「進路設計、選択、決定」などキャリアプランニング能力を高めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から役割や仕事を見付けたり、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動できる。 ・不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組むことができる。 ・物事に見通しをもって計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりすることができる。 ・自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の仕方を工夫したりすることができる。

各教科	道徳	特別活動	総合的な学習の時間・その他
<ul style="list-style-type: none"> ・成就感や自己有用感を育む授業を心がけ、将来必要となる基礎的知識や技能の習得を図る。 ・学ぶ喜びをもち、主体的に学習する生徒を育成する。 ・問題解決的な学習への取組を充実させる。 ・自分の能力や適性を知り、それを伸ばしていく能力を育成する。 ・基礎的・汎用的能力を育むような授業の改善を図る。 ・定期的な授業の評価により授業の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が所属する様々な集団への理解を深め、役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努めようとする態度を育成する。 ・勤労の意義や尊さを理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努めようとする道徳的実践力を育成する。 ・発達段階に応じて指導内容を重点化し、体験活動を推進する。 ・道徳の時間を要として、全ての教育活動で実践する。 ・先人の伝記、スポーツなどの感動を覚える教材を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動 諸問題の解決、組織づくり、係の分担、個人及び社会の一員としてのあり方、将来の生き方と進路の選択などについて、指導の充実を図る。 ・生徒会活動 学校生活の充実・改善・向上を図る活動やボランティア活動を通して、将来設計能力や意思決定能力などを培い、個性や社会性の伸長に努める。 ・学校行事 職業や進路に関わる啓発的な体験などの自主的・自発的な活動を通じ、主体的な態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学び方や考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自分の生き方を考えさせる。 ・職場体験学習などの社会体験的な学習を充実させる。 ・集団生活への適応と進路の選択に関わるガイダンス機能の充実を図る。 ・豊かな人間性や社会性、集団生活に必要な規範意識やマナーを育み、生徒の自己指導能力を培う。 ・人間関係形成能力を高める場として、部活動への積極的な取組を促す。

生徒が自分の良さに気づき、社会的・職業的に自立するために必要な能力や態度を身に付ける